



圖書館報 第41期



目 次

先生おすすめの本	2
図書委員会活動報告	6
➤ 特集 機械工学科 北條先生が書く イギリス・ケンブリッジでの生活	7
図書委員たちによる特集記事	9
校内読書感想文コンクール入選作品他	12

先生おすすめの本

【コミック編】

機械工学科 小西大二郎

「敗 走 記」

著者 水木しげる 出版社 講談社

「ストーリー漫画」や「劇画」は好きで『ブラック・ジャック』（手塚治虫）、『ゴルゴ13』（さいとうたかを）などは学生時代によく読んだ。近年では『沈黙の艦隊』（かわぐちかいじ）が特に面白かった。この本の作者は、最近のNHK朝の連続ドラマ『ゲゲゲの女房』にも登場した水木しげるである。人物の絵がとぼけたタッチで描かれているのに比べて背景などはリアルに描かれた独特な作風であるという理由から、以前から読んでみたいと思っていた。そして、朝ドラが契機でついに「劇画」風のこの本を読むことができた。

作者が戦争中、南太平洋で経験したものと見聞きした事実に多少のフィクションを加えて描かれた短編6編からなる戦記コミックである。作者が妖怪を扱った作品『ゲゲゲの鬼太郎』で人気漫画家となったことは皆さんもご存じだと思うが、このような戦記ものがあることを知っている人は少ないかもしれない。この本のあとがきの一節に「生死の境に美談あり・・・」という件があり、南太平洋のスピリチュアルな空間の中で

作者が経験したことを鬼太郎流に描いたせいか、題材の重さを感じずにすらすらと読み進めることができた。

一般科目 横谷正明

「三 国 志」

著者：横山光輝 出版：潮出版社

マンガを紹介してほしいといわれ、このマンガをひとつ挙げさせていただきます。

1971年から1985年にかけて、単行本は全60巻（文庫版は全30巻）が発行されています。小学生のころに初めてこのマンガを読みました。次の巻が早く出ないか待ち遠しくて、本屋のおばさんに「まだ出ないか」尋ねると、「この本は横山光輝氏が壮大なスケールで取り組んでおり、何年もかけて完成する予定ですぐには出ない」というようなことを言われたのを覚えています。そのうちこのマンガのことを忘れてしまい、実は最後まで読んでいません。数年前に思い出し、文庫版を何巻か買い求めて読み始めました。三国志の入門に最適だと思います。

一般科目 江原由美子

「ツレがうつになりまして。」

著者 細川貂々 出版社 幻冬舎

国語担当の教員としては、『あさきゆめみし』（『源氏物語』の漫画）、『超訳百人一首うた恋い。』（百人一首の漫画）、『ちはやふる』（百人一首競技の漫画）、『とめはねっ！ 鈴里高校書道部』（書道の漫画）、『日本人の知らない日本語』（日本語教育の漫画）等、科目と関係があるものを挙げるべきなのかもしれませんが、多くの人に読んでほしい作品ということで、今回は表題の漫画を御紹介します。

テレビドラマになり、映画化もされた、『ツレがうつになりまして。』。うつ病になったツレ（夫）と漫画家の妻の話です。うつ病がテーマの作品だと思うと、敷居が高く感じるかもしれませんが、漫画ですから気軽に読めます。実体験が描かれているので、同様の状況にある人には、専門書以上に正確で、共感できる部分も多々あるそうです。うつ病は、思っている以上に、身近な病気です。津山高専の図書館にも入っていますので、興味のある方はぜひお読みください。

情報工学科 菊池洋右

「バカとテストと召喚獣 SPINOUT! それが僕らの日常。(1)-(4)」

著者 namo 出版社 ファミ通クリアコミックス

この漫画を読んだことはありません。が、お勧めの漫画として紹介します。この作品が学生にとって進路を考えるうえで役に立つと思うからです。

津山高専を卒業するとエンジニアにしかねないわけではありません。情報工学科なら情報工学というものを見かた、考え方を教えているのであり、SEやCEやプログラマーになる勉強をしているのではないのです。情報工学という視点に立って物事を見て、考えるということを学んでいるのです。大袈裟に言えば情報工学という哲学を学んでいるのです。他の学科の学生は情報工学を自分の学科に置き換えてくれればいいでしょう。ですから学生は学科の枠に縛られることなく自由に進路を考え、その進路を実現するために準備を

すすめてほしいと思います。そのときに学科の持つ哲学が生かされるなら、君たちはその学科の哲学を多少なりとも身に着けたといえると思います。namoは津山高専の卒業生で、漫画家になる夢を実現するために研究室で漫画を描いていました。ときには徹夜もしていたようです。夢を実現するための準備をしていたのだと思います。namoの漫画に情報工学が生かされているかはわかりませんが、先輩の作品でも読んで自分の進路について考えてみるのもいいのかもしれない。

(注) 漫画家になることを推奨しているわけではありません。

【文庫編】

一般科目 かどや・ひでのり

「漢字が日本語をほろぼす」

著者 田中克彦 出版社 角川SSC新書

「ことばと天気のはなしはだれにでもできる」といわれることがあります。ほとんどのひとは、しらぬうちにことばをおぼえ、日常はとくに意識せずにつかっている、また、ひとりひとり、程度の差はあれ、愛着やこだわりをもっています。ところが、そういう「ことば」について、たちどまってかんがえてみると、不思議なコトがいろいろみつかります（ことばだけに注目してかんがえる学問を言語学、人間・社会とことばのかかわりをかんがえる学問を社会言語学といいます）。この本は、（この文章のように）日本語でつかわれている漢字がいかに奇妙な存在かを、これでもかとおしえてくれます。

世界中の言語とくらべてみると、現代日本語の「漢字かなまじり文」は、かなり異常な性格をもっています。こどものときから、膨大な時間を文字だけの学習についやして、それでも完全には習得できず、どんなにえらいコクゴクシャでも完全にまちがえずによむことはできません（この文章の筆者名がかながきなのは、「一〇〇%ただしくよんでもらう」ためです）。もっと簡単に、たとえば、ローマ字やかなをつかって日本語をかくようにしたらどうか、というのは、かんがえてみる価値のある提案です。みんながつかう文字としては、あまりにむずかしすぎる漢字をつかうのをやめてしまった言語集団は、アジアをみまわせばいくつも

あります。漢字がなくなったらこまる？ 同音異義語が？ ニホンの伝統？ 文化？ そういう疑問をもったひとは、ぜひこの本や、『識字の社会言語学』『イデオロギーとしての「日本」』をよんでみてください（どちらも図書館にあります）。

いちばんよくきかれる疑問、「同音異義語の区別ができなくてこまる！」について、すこし、かんがえるヒントを。毎日の生活でいろいろな会話をするときや、ラジオ・電話では「漢字つかわずに」しゃべっています。でもだれもこまっていないようにみえるのはどうしてでしょうか。また、盲人がつかっている点字には、漢字がありませんが、これまた、だれもこまっていません。「漢字がなくなったらこまる」と声高なひとたちは、いったい、どういうひとたちかをかながえてみると…。漢字にも利権があるわけです。ああ、オトナの世界って。

きりがないので、しめます。漢字が好きなひと、きらいなひと、漢字の味方のひと、敵のひと、この本をよむことで、「味方や敵をよくする＝より知的につきあっていく」ことができるようになります。そういう本です。

電気電子工学科 原田寛治

「一瞬の風になれ

1（イチニツイテ）」

著者 佐藤多佳子 出版社 講談社

この本は中学時代サッカー部だった主人公が、親友の走りに憧れて陸上競技部に入り、4x100mR（4 継）を走る青春小説です。

津山高専陸上競技部の 4 継は 2 年連続全国高専大会に出場し連続入賞した。

原田は他高専の選手より走力の劣るメンバーが、中国地区予選から心をつにして全国大会で入賞するまでの軌跡とダブリ、読みごたえのある本でした。自分の道に迷っている人、まっすぐな心が欲しい人は読む価値のある本です。

情報工学科 河合雅弘

「塚原ト伝十二番勝負」

著者 津本陽 出版社 PHP文庫

永正二年（1505 年）、十七歳になったばかりの塚原新右衛門（のちのト伝）が剣の修行のため家来の山崎左門とともに廻国修行に旅立ち、旅先の小田原や京の都を舞台に数々の難敵と対決しながら剣の奥義を究めてゆく姿を描いた剣豪小説です。武道への造詣が深い津本陽の小説だけに、剣の技や試合の駆け引きも迫真の描写で描かれ、引き込まれる語り口です。つい最近NHKでTVドラマ化されたので映像で見た人も多いと思いますが、小説では晩年に至るまで剣の修行に取組んだ姿が描かれています。一人の若者が剣の道にストイックに取組み、道を究めて行く様子が清々しく、一読の価値があると思います。

一般科目 吉田英治

「岡潔 数学の詩人」

著者 高瀬正仁 出版社 岩波新書

岡潔（おか きよし）という名前は、数学に興味を持っている人なら一度はどこかで見たり聞いたりしたことがあるのではないかと思います。それくらい有名な数学者です。

私はこの本の著者である高瀬さんをほんの少しですが知っていることもあり、岡潔の数学に心酔していた高瀬さんが、どんなことを書いているのだろうかという興味で湧きこの本を読みました。岡潔の数学がどのように進展していったか、またそれに連なる形で岡潔の人生がどのように変転していったかということが丹念に調べられており、著者の力量と相俟ってとても質の高い伝記になっていると感じました。

数学には、科学という側面と芸術に相通ずる側面との 2 面性があるというのはよく言われることですが、多分に詩人の資質を有していたと言われる岡潔は、芸術的な側面に際立った才能を発揮していました。そこからあたりもこの本ではよく書かれており、深く共感出来る箇所がいくつもあります。みなさんも、岡潔の生

き様から数学でも本気で取り組みばこんなにドラマチックなものになるのだということを是非感じ取って下さい。

一般科目 廣木 一 亮

「ペルシャ人の手紙」

著者 モンテスキュー

『法の精神』のモンテスキューが書いた笑える本『ペルシャ人の手紙』。パリにやってきたペルシャ人が手紙の中で描く、変な国フランス。時にユーモラス、時に皮肉たっぷり、社会の不合理を糾弾した作品。

「セヴィリヤの理髪師」

著者 ボーマルシェ

アルマビーバ伯爵はロジーナ嬢に一目惚れ。この恋を成就させようと、賢いフィガロは周囲を巻き込んで大奮闘。果たして伯爵はロジーナ嬢と結婚できるのか？

現代ドラマにも通じる、誤解が誤解を生み、笑いが笑いを生む傑作喜劇。

「美味礼讃」

著者 ブリア=サヴァラン

「人類の幸福にとって、新しい御馳走の発見は、新しい天体の発見以上に価値がある」 食通ブリア=サヴァランが語る、様々な食材や料理、伝説の宴、食の哲学。原題は『味覚の生理学』、食の科学本としても面白い一冊。

専門学科共通科目 佐々井祐二

「すごい実験」

－高校生にもわかる素粒子物理の最前線－

著者 多田 将 出版社 イースト・プレス

著者は金髪・ロン毛、図抜けたコスチューム、ネット上では「Shoさま」と呼ばれている高エネルギー加速器研究機構(KEK)の物理学者です。茨城県東海村に世界最強の加速器の一つ大強度陽子加速器施設「J-PARC」があり、そのパワーは1メガワット、建設費は1,500億円、年間の電気代は50億円というもの凄い施設です。2010年2月24日、著者が携わっているT2K実験において、J-PARCから発射されたニュートリノを295km離れた岐阜県飛騨市神岡町にあるニュートリノ検出器「スーパーカミオカンデ」で検出することに成功しました。ミュー型から電子型へのニュートリノ振動を観測することにより、ニュートリノの質量の存在を証明したわけです。本書は、中央大学杉並高等学校での4回の授業が元になっており、素粒子物理の基礎から加速器の仕組み、T2K実験まで、イラストも使って非常に平易に説明しています。100年後には、ニュートリノが電気のように利用できるかもしれません。



図書委員会活動報告

ブックハンティング

ブックハンティングは図書館でみなさんに読んでもらいたい本を、図書委員が実際に書店まで出向いて選んでくるという活動です。

今年は6月と12月に、ブックハンティングの担当を中心とした図書委員数名と先生、司書さんで岡山の紀伊国屋書店に行きました。実際に書店に行ってみると様々な本が出版されており予算内に収めるのが大変でしたが、みなさんに読んでもらえるよう人気の新書から歴史小説、工学や数学の参考書、SPI対策、料理本など幅広いジャンルの本を選んできました。ブックハンティングで選んできた本は図書館に入ってすぐの学生希望図書の棚に置いてあるので、手に取ってもらえると嬉しいです。

あまり図書館を利用したことがない人も、この機会に足を運んでみてはどうですか？（筒井）

古本市

例年、弥生祭では校内から集めてきた不要本を格安で売るという古本市をしていたが、今年は津山市立図書館の協力を得て、津山市立図書館の資料リサイクル市を行った。市立図書館の企画のため、「無料でお持ち帰りください」というスタイルになり、例年とは若干違った古本市となった。

雨などで人がほとんど来ないのではないかと予想されたが、古本市に関心を持って来てくださった方が多くいた。来場した方々が、用意した本の中から興味のある本を探し、持ち帰っていただけたので、今回の古本市の開催は成功したのではないかなと思う。今後もこのような活動を続け、多くの人にたくさん本を知っていただければよいと思った。（齊藤）

読書会

私たちは、年間を通して読書会に取り組んできました。読書会とは、委員が今まで読んだ中で面白かった本、感動した本を皆さんに紹介することで、図書館をより活用してもらおうというものです。9月に予定しており準備期間が長かったので、なんども打ち合わせをすることが出来ました。宣伝のポスター等、慌ただしい場面もありました。読書会当日は少数でしたが生徒の方々にも参加していただきました。1時間ほどの短い会でしたが、伝えたい本のよさを委員皆がしっかり伝えられたと思います。反省点も見つかったので、今後の活動に役立てたいです。（青木）

イギリス・ケンブリッジでの生活

機械工学科 北 條 智 彦

2009年～2010年に在外研究員としてイギリスのケンブリッジ大学に1年間の留学をする機会をいただきました。ケンブリッジはロンドンの北、約80kmに位置する人口およそ12万人の学園都市です。街は古くて趣のある建物ばかりで、ケンブリッジに住みはじめた頃は感動し放しでした。

ケンブリッジ大学はオックスフォード大学と並んで歴史のある大学で、2009年はちょうど創立800周年でさまざまなイベントが行われていました。また、ケンブリッジ大学は多くの著名な卒業生がいます。「種の起源」のチャールズ・ダーウィン、「万有引力の法則」のアイザック・ニュートン、DNAの二重らせん構造を発見したフランシス・クリックとジェームズ・ワトソンなど歴史の授業で学んだ人物もケンブリッジ大学の卒業生です。ケンブリッジ大学は日本の大学とは異なり、31の独立したカレッジが集まって「University of Cambridge」になっています。（私はケンブリッジ大学の研究所でお世話になったのでどこのカレッジにも所属していませんでした）各カレッジには美しい庭と特徴あるチャペルがあり、休日のカレッジ巡りは楽しかったです。

私を受け入れてくださったBhadeshia先生は金属学に関して世界的に有名な先生で、Super Bainiteという鉄鋼材料を鉄道のレールとして実用化して世界中の研究者から注目を集めています。在外研究先にこの先生の研究室を選んだ理由は、材料科学、金属学の基礎をしっかりと勉強して、Bhadeshia先生や研究室のメンバーから新しいアイデアを得て、新たな研究分野を開

拓したいと思ったからです。先生はさまざまな国からの研究者を受け入れており、研究室には私の在籍していた1年間だけでも中国、韓国、マレーシア、インド、パキスタン、イラク、ドイツ、スロベニア等から短期、長期で来られていて、研究に関する情報交換やそれぞれの国の文化を知る機会がたくさんありました。

研究室では午前中は論文を読んで英語の勉強を兼ねて専門分野の情報収集をする、午後は研究（実験）をすると決めて毎日過ごしていました。研究室には午前10時30分頃と午後3時30分頃から約1時間ずつTea timeがあって、メンバー全員が建物の最上階のティールームに集まって雑談します。ケンブリッジに行ったころは其中で話すことはもちろん、みんなが何を言っているのかも聞き取ることもできなくてストレスがたまりましたが、1年間毎日みっちり2時間の英会話を行ったお陰でみんなの会話について行くことができるようになりました。本業の研究の進み具合はかなりスローペースになりましたが、これはこれで英語でのコミュニケーション能力向上のトレーニングができたのでよかったと思います。他に日本人のメンバーがいなかったことも英会話上達にはよかったのだと思います。

午前に行っていた論文読みの論文ですが、主にBhadeshia先生のホームページやScience Directを用いてダウンロードしていました。先生のホームページには先生の論文、著書がすべてダウンロードできるようになっていてたいへん便利でした。さらに、授業で用いる教科書、スライドもダウンロードすることができて授業風景

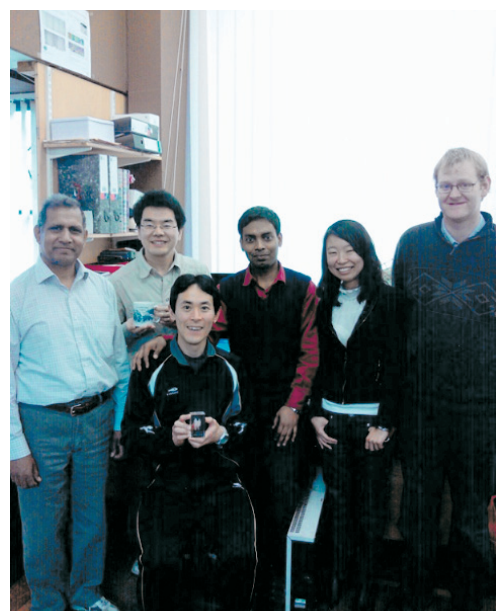
はYou Tubeで観ることもできます。学生は予習・復習のためにYou Tubeを観ながらダウンロードしたテキストとスライドを活用しているようです。もちろん、大学には中央図書館のほか、各カレッジや研究所に図書館があって自由に使うことができました。私がよく利用したのは大学の中央図書館と研究所内にあるDepartmentの図書館でした。中央図書館は地上2階、地下1階のとても広い図書館でさまざまな分野の本が揃っていました。あるスペースは歴史的な図書の展示スペースになっていてイギリスらしいと感じました。また、研究所内の図書館は、古いものを大切にするイギリス人の性格が出ていたと感じました。この図書館には古い専門書が多かったのですが、空調で温度、湿度を一定に保つのはもちろん、陽の光による色あせを防ぐために紫外線シートが掛けられ、図書館の職員の方が定期的に見回って本の状態を確認していました。

800年の歴史のあるケンブリッジ大学ですので、歴史的に貴重な品々がたくさんあります。これらの品物を展示した小さな博物館が街の至る所にあります。恐竜博物館、地球科学博物館、歴史科学博物館などさまざまな分野の博物館があり、民家にまぎれて博物館と気づかないようなところもありました。これらの博物館はケンブリッジ大学が管理していて無料で入場できます。このように博物館を無料で市民に開放する精神はケンブリッジ大学に限ったことなく、イギリス国の精神のようで、ケンブリッジのFitzwilliam博物館もロンドンの大英博物館も無料で入場できました。

大英博物館は世界中の美術品や遺物が展示されていてとても広く、一日ではすべて見て回ることができませんでした。私は3日に分けて展示を観賞しました。ロゼッタストーンや人、猫の

ミイラなどの世界的に貴重な遺品を間近で観ることができて感動しました。しかし、日本を紹介するスペースでは「萌えアニメ」のポスターが大々的に紹介されていて、これが日本？と不思議でした。大英博物館の開館時間は午前10時から17時30分で、17時頃には閉館の準備が始まります。閉館時には見学途中でも締め出されてしまいます。仕事の時間とその後の自分や家族との時間を大切にするイギリスの文化を感じました。

1年間の在外研究で生活においても研究においてもイギリスのよいところ、悪いところを肌で感じてたいへん刺激を受けてきました。今、ケンブリッジで過ごした1年間を振り返ると、またイギリスに戻って生活してもいいかな、という気持ちになります。このような留学の経験は私よりも若い学生のみなさんに必要と思っています。今後、私の研究活動を充実させていくとともに学生のみなさんの留学などの支援ができればと思っています。



速 読

「一分間勉強法」という本を読んだことがある。その一節に「見開き2ページを0.5秒で『感じれば』1冊を1分で読むことができる」とある。人と同じように、第一印象には重要な要素が多く含まれており、それを0.5秒で感じとり、読み進めることで、大事な要素だけを超短時間で習得できるというものである。

読書には、情報収集としての読書と、著者・著作を通して自分と向き合うための読書の二種類がある。通常読書は後者で、一文字一文字を目で追っていく「なぞり読み」であり、目の速度以上に読書速度は上がらない。声を出していなくても、頭の中で音声化して読むため、その速度に限界があるのである。一方、前者は速読と呼ばれ、冒頭で紹介した著書はそれを使ったものである。文章をブロックごとに、あたかも風景を「見る」ように瞬間的に視野に入れ、並列的に次々と内容を「理解」していく読み方である。よく、勘違いするのだが、けっして飛ばし読みや斜め読みではない。速読を使えば、隙間時間を有効に使うことができる。疑問点があっても、関連の書籍を速読するだけで、数分で解決できる。また、それに伴い、知識量が圧倒的に増える。他にも、受験勉強にも役立つし、集中力も向上し、数時間本屋にいただけで、大抵の本は読めてしまうので書籍代もかかりません。ただ、すぐに実践できるかというと、そうではなくて、トレーニングが必要になります。逆に言えば、トレーニングをすれば、誰でもできるようになります。

簡単なものを紹介すると、まず、なるべく自分が知らない絵本を用意し、1ページ、1秒で読む。次に、紙とペンを用意し、読んだ内容を書き出してみる。ほとんど読める状態ではなかったと思うが、わからないところも想像で書いてみる。次も同様に読むのだが、今度は1ページ2秒で読む。読み終わったら、再度内容を書き出す。きっと、1度目より2度目の方が実際の内容に近いと思う。大事なものはこの2回で、1回で半分を理解し、2回で残りの半分を理解する。この動作の繰り返して、素早く本を読み、限りなく精度を上げていくのだ。これはほんの一例で、他にもインターネット等で調べれば、見つかるはずである。自分に合ったトレーニングを見つけ、ぜひ実践し、速読を習得してほしい。そして、習得した暁には、それを最大限活用し、様々な分野において、自分の知識をさらに伸ばしてほしいと思う。(今西)

速読＝「視読」



読書＝「音読」



雑誌特集

津山高専には約20種類の雑誌が置いてあります。ここではその中で自分が選んでみた4つの雑誌を、紹介してみたいと思います。

「週刊金曜日」

自分はこの雑誌の表紙を見てこれを選びました。この雑誌にはおもに政治関係の事が載っていてどれも新聞に書かれていないような内容ばかりでした。とても読みやすく、政治についての四コマ漫画などがあったりします。映画、音楽、文庫、美術などから選ばれたものが載っていて読んでみたら分かります。政治に興味ない人にオススメです。連載小説などもあってぜひ読んでみてほしいです

「日経PC21」

この雑誌は、PCの事について書かれているのですが23年9月号では「USBメモリーを万能ツールに！」という内容で、50ページにわたりUSBについて紹介されていました。読んでみたのですがUSBについてあまり知らない自分でも詳しく紹介されていました。例えば「今買える！16ギガバイトのUSBメモリー44製品」では「バッファロー」「エレコム」「ソニー」「グリーンハウス」などのUSBが載っていて、その1つ1つが「LED」「スライドキャップ」「キャップ装着○」「折り畳みキャップ」などの情報が載っていてとても分かりやすかったです。他にもUSBについていろいろ詳しく載っていてぜひよんでほしいです。

「日経ものづくり」

題名の通りものづくりについて書かれています。図や絵を使って車、タービン、IH調理器、農業、省エネなど最新の情報がいろいろ載っています。機械や最新のものづくりに興味がある人は、ぜひ読んでほしいです。

「旅」

題名の通り旅について書かれています。旅の楽しみを知りたい人や、どこに行きたいか迷ってる人にオススメです。残念ながら現在は休刊となっていますが、バックナンバーは図書館の中2階に保存しているので、気になる人はぜひ読んでみてください。

(高蜂)

津山高専図書館ツイッターやってます！



<http://twitter.com/#!/TsuyamaKosenLib>



“ オススメ本の紹介を始め、図書館、本についての豆知識が豊富に語られています。ぜひアクセスしてみてください。 ”

(小坂)

岡山大学附属図書館に行ってきました

平成23年12月21日に、本校図書委員や図書館アルバイト等5名で、岡山大学附属図書館（中央館）に見学に行きました。総合大学の図書館ということで、高専や近隣の大学図書館とは規模が違い、その大きさに一同驚いていました。本館と新館とで構成される中央図書館の閲覧室をじっくり見て回り、さらに岡山大学のランドマークである図書館時計塔の中に入ったり、所蔵している古文書を保管している貴重書庫や貴重書展示室を見たりしました。見学の後は、図書館職員の方に岡大図書館の説明を聞き、質問に答えていただいたりしました。みな岡大クラスの大学図書館を訪問したのが初めてだったため、良い経験になった、と満足していました。(藤原)

校内読書感想文コンクール

城の崎にて(志賀直哉)を読んで 1年1組3番 大津 倖太

「自分」が城の崎に来たのは、東京で電車事故にあった後の養生のためだった。「自分」はあやうく命をおとすところだった。そんな経験をする、だれでも命について考えざるを得ない。「自分」もそうだった。一つまちがえばそのとき死んでいたかもしれない「自分」が、今生きている。素直にその現実を喜び、これから力強く生きていくための原点にしていけばよかったのに、「自分」にはそのようなプラス思考はできなかった。「死」が頭から離れず、死の不安を覚えるようになったのだ。だれでも死は恐ろしいものだと思う。死んでしまえばそれで何もかも終わりとは考えにくい。その後自分はどうなるのだろうかと考えざるを得ない。安らかに美しい天国があるのか、鬼がいたり、針山があったりする地獄があるのか、それとも……。これは答えがないだけに、いくら考えても何の結論も得られない。考えすぎて不安になってくるときりがない。しかし、その不安の光はどうなるのだろうか。普通なら頭の体操をくり返している自分自身に気づき、我に返るものだと思うが、「自分」はそこところが違っていた。死の不安におののいた後、逆に死の静かさに親しみを感じ始めたのである。

世の中はめまぐるしく移り変わっていくし、その中で「自分」は忙しく生きていかねばならない。人間関係のわずらわしさもある。そんなあわただしく、きゅうくつな生き方を続けるより、いっそ死を選んだ方が

落ち着けると考えたのだろうか。社会のすべてのわずらわしさから逃げてしまうためには、死を選ぶことがいちばんよい方法だと考えたのだろうか。

そんな「自分」が城の崎でいくつかの光景を目にし、ますます生と死について意識するようになった。首に竹ぐしをさされたねずみが、死ぬ運命を担いながらも必死に逃げようとするのを見たときは、「自分」の死に対する恐怖心がよみがえっていやな気持ちになったし、投げた石が偶然にいもりに当たって、そのいもりが死んでしまったときも、自分の死を強く意識せざるを得なかった。生きていくことは必ず死につながる。生きるということは何とさびしく、何とはかないことなのか。これから生きていくことに、一体どんな価値があるというのだろうか。それなら、死んでしまってもそれほど差はないだろう。

「自分」は三匹の小動物の死を自らの死に結びつけてざるを得なかった。生き物には命というものがある。生きることには積極的な意義を見い出してたくましく生きることも一つの方法だが、逆の場合は生きることが苦痛になってくる。その苦しみからのがれるために、死を選択することもまた一つの方法である。

作者の志賀直哉にとって、生と死はそれほど差のないものなのかもしれない。自ら死を選ぶことも、一つの「生き方」として、心のどこかで認めていたのかもしれない。

きみの友だちを読んで

1年1組8番 岸部 仁美

私がこの本を読もうと思ったきっかけは、私の友達が重松清さんの本が好きで、「面白いから是非読んでみて」と勧めてくれたからです。私はそのせいもあり、以前からこの人の本を読んでみたいと思っていました。また、この人の本は思春期の私達のような子供を取り

扱った作品が多く、今回の「君の友だち」を読んでいて、共感できる部分がすごくありました。そして、この本を読んで自分にとって本当の「友だち」とは何なのか深く考えさせられた気がします。本当の「友だち」とはどこにいるのだろうか？とも思いました。思春期の

今だからこそ、すごくよく分かる問題もありました。

この本を読んでいて、まず私が印象に残ったところは、「にゃんこの目」という物語の部分で、親友とはどういう存在のことを言うのか、と恵美ちゃんとハナちゃんが口論になっているところです。ハナちゃんは、友達や親友なら、一緒にいないと寂しいし、その子とずーっと一緒にいたいと思うから、友達や親友というのではないかと恵美ちゃんに問いかけました。すると恵美ちゃんは、一緒にいなくても寂しくない相手のことを友達だと思う、と言ったのです。私は、この恵美ちゃんの言葉が、すごく心に残りました。私は、この恵美ちゃんの言葉を知るまで、ハナちゃんと同じ考えでした。でも、よく考えると、私の親友は大阪という中々会えない距離にいるのに、一緒にいなくて寂しいと思ったことはありませんでした。だから、私の親友という存在は、恵美ちゃんの言葉の通りだと思いました。親友という存在は、一緒にいなくても寂しいとも思わないけど心は繋がっていて、お互いのことを思いあえる存在なのだと思います。また、私にとっての親友は、それも含め、たとえどんなに離れていても、他人にお互いが「親友なんだよ」と自慢しなくても親友だと分かることができる存在です。

次に、私が印象に残ったところは、恵美ちゃんの「みんな」は嫌い。「みんな」が「みんな」でいるうち

は、友達じゃない。たくさん友達が欲しいとも思わない。亡くなったりしていなくなっても、一生忘れない友だちが一人いればいい、という場面です。恵美ちゃんが言う「みんな」は、うわべだけ、表面上だけの仲間であるから、私もそんな仲間を欲しいとはあまり思いません。その「みんな」は仲間であっても心は繋がっていないので仲間ではない存在だからです。そんな存在をたくさんつくっても、楽しくないと思います。けれども、恵美ちゃんが言ったような、一生忘れられない「友だち」が私は欲しいです。理由は、うわべだけのすぐに忘れちゃうような仲間なんかよりも、一生忘れない「友だち」の方が自分の人生の中ですごく価値が大きいものだと思うからです。私にもそんな存在ができればいいなと思います。

この本を読んで学んだことは多くありました。友達や親友とは何なのか。このような問題には、答えを探してもそう簡単には見付からないと思います。というより、答えを出さなくとも知らず知らずの内に、見付けていると思います。人それぞれ友達や親友の価値は違うし、違ってするのが当然です。自分の思う価値は、ある人から見ると低いものかもしれないし、別のある人から見ると高いものかもしれません。でも、そんな中でも他人に左右されずに自分の中の友達や親友の価値を見失わないでいたいです。

「バカの壁」を読んで

1年1組33番 丸尾 優佳

インパクトのある「バカの壁」という本の題名と帯の『「話せばわかる」なんて大うそ』を見て、私はこの本を思わず手にとった。「話せばわかる」という言葉は、五・一五事件で犬養首相が暗殺される直前に残した言葉である。必死に発した言葉だったのに彼は問答無用で暗殺されてしまった。「話しても通じない人・話しても解り合えない人」がいるのか。この本は、人と人とのコミュニケーションのハウツウ本なのかと思ひ興味深く読み始め、一気に読んでしまった。

「バカの壁」とは我々は自分の脳に入ることしか理解できない、つまり学問が最終的に突き当たる壁は、自分の脳という事になる。また、我々は、自分が知りたくない事については、自主的に情報を遮断してしまっている。ここに壁が存在している、これが「バカの壁」

なのである。なる程、確かに私にも「バカの壁」がしつかりとある。苦手な教科を勉強している時も、そのせいで好きな教科ほど思うように効率が上がらないのだ。また自分には関係ないと思っている事、全く興味のない事など自分では無意識に情報を遮断しているので脳には入ってこない。母に言われる小言等も、二つ返事で返すのだが、後になって

「何を言われてたっけ。」

とこのような調子である。

養老氏は、脳への入力・出力は $(y = ax)$ という一次方程式で、入力を x 、出力を y とし、 a は係数で表せると述べている。興味のある場合と、そうでない場合では係数がマイナスやゼロになり、その逆である刺激に対して a が無限大になってしまうと、絶対的な真

理を強要するようになり、話しても通じないのである。これが、一元論者という事になる。そして「バカの壁」というのは一元論に起因するので、そこから戦争やテロ、民族間・宗教間の紛争が起こる。かつて青年将校達が自らの信念のため、相手を殺したりしたような事にもなると訴えている。バカにとっては、壁の内側だけが世界で向こう側が見えない。向こう側が存在しているという事すら、わかっていない。確かに、争っている人達は、互いに自分が正しくて相手が悪いと思いつ込んで入っているのだ。だから、ほとんどの人の意見が一致している社会が良い社会ではなく、複数の解を認める社会が住みよい社会だとも訴えている。

養老氏の言うように、最初から方向が決まっていたら、考えなくても良いし、楽である。でも、戦時中の日本や、一つのカルト宗教に身をゆだねて、マインドコントロールされ、固定観念に縛られ、周りがまったく見えなくなってしまうのは、恐ろしい事である。現在は、情報化社会で、世界で起こった事が瞬時に映像

で見られたりするが、マスメディアの放送の仕方一つをとっても、事実だけを伝えるのではなく、被害者意識を強く映したり、悪者と決めつけた人を悪者と強く視職者に意識づけさせたりしている事があるように思う。私は、流れている映像、コメンテーターの意見なども、そのまま受けとらず、頭をやわらかくして、逆の立場からも受け止めることも大事だと思った。また、世の中には、様々な考えを持った人が居るので、一人の意見に傾倒せず、たくさんの意見を聴いたり、たくさんの人の書物を読む事も大事だと思った。そして、私なりの意見としては、「バカの壁」があるという事実をたくさんの人が知り、自分が絶対であるという考えに陥らず、他の角度から見方を変えてみるために試行錯誤し実感する教育が必要だと思った。

私は、この本に今、出会えてよかったと思っている。私は強固な壁の中だけに住みたくなかった。壁の向こう側の世界にも、しっかりと目をむけて、成長していきたい。

図書館の閲覧室について

平成24年2月に閲覧室の机を増設し、それに伴い閲覧室も模様替えしました。新たに10人掛けのグループ研究用の机一脚と、3人掛けの少人数で使える可動式の机を二脚が入りました。本校図書館は学習のための図書館と位置付けており、勉強しやすい環境を整えることを第一に計画を立てています。閲覧室に8台あるパソコンも旧型3台を廃棄し、4台新たに入れる予定です。また、学生希望やブックハンティング等で読み物系の図書も随時入れています。津山高専図書館をぜひご利用ください。(藤原)



図書館支援学生交流会

平成23年11月26日、津山高専図書館で、本校図書委員・図書館アルバイト、津山高校図書部、美作大学図書館ボランティアの三者で交流会を行いました。学生、職員合わせて18名が集まり、まず津山高専図書館の見学を行った後、互いの活動内容の報告会を行いました。各校独自の取り組みとして、美作大学では学生・職員が応募できるしおりコンクール、津山高校では本の中で出会った名言投票など、他校が行っている取り組みを知ることができました。機会があれば津山高専でもぜひ行いたいものです。

最後に行われた雑談会では図書館関係に限らず、学校生活やお互いの進路などについても話し合うことができました。5年間高専で生活していた私にとっては、高校、大学についての知識がほとんどなかったので、いろいろと知識を深めることができました。特に、工学系ではない学校の話はなかなか聞く機会がないので、大変ためになったと思います。

今回、大成功に終わったこの図書館支援学生交流会ですが、また来年も行うかもしれません。この交流会に限らず、近年では図書館関係のイベントもいろいろと行われています。津山高専の図書委員になれば、普段ではめぐりあえないような出会い、経験ができるかもしれません。この記事を読んだ皆さん、ぜひ図書委員に入ってみてください。(小坂)



津山高専リポジトリ ダウンロード件数 (2011)

	タ イ ト ル	著 者	発表年	掲 載 誌	ダウンロード 件数(国別合計)
1	SiCパワーデバイスの特性評価 (第2報)	牧野友昭 長井聡	2007	紀要, 48	1926(18)
2	ボルト・ナットの製図についての一考察	重松清 牧暢夫 里吉昭宣	1986	紀要, 23	1812(11)
3	The Characteristics of George Orwell's Social and Political justice -ジョージ・オーウェルの誠実さ-	植月徹	1968	紀要, 1(5)	976(3)
4	蕪村の句における漢詩文の影響について	仁枝忠	1968	紀要, 1(5)	944(12)
5	ポリエチレン球晶の光学的性質と内部構造について	末房清 杉山巍	1968	紀要, 1(5)	893(8)
6	水溶液中への酸素ガスの溶解速度と溶解度	樋口敏三	1994	紀要, 34	818(10)
7	ポリエチレンの球晶構造について	末房清 杉山巍	1971	紀要, 3(1)	638(4)

津山高専図書館 貸出ランキング 2011年4月～12月

順位	貸出回数	タ イ ト ル	著 者
1	10	大学編入試験問題数学 徹底演習：微分積分・線形代数・応用数学・確率	林義実, 山田敏清
1	10	キケン	有川浩
3	8	Internet language② Javascript入門	片岡 巖
4	7	PID制御の基礎と応用	山本重彦, 加藤尚武
4	7	数学検定問題集準2級	
4	7	Engineering electromagnetics 7th ed	William H. Hayt
4	7	ストーリー・セラー	有川浩
4	7	傾物語	西尾維新
4	7	県庁おもてなし課	有川浩
4	7	もやしもん 8巻	石川雅之
4	7	もやしもん 2巻	石川雅之
4	7	もやしもん 3巻	石川雅之
4	7	もやしもん 7巻	石川雅之
4	7	もやしもん 5巻	石川雅之

編集後記

今回は、従来の記事に加え、特集記事も掲載しました。先生の留学体験記ということで、普段ではなかなかふれる機会がない内容だと思います。ぜひ読んでみてください。

忙しい中、原稿を書いてくださった先生、学生の皆様、本当にありがとうございました。

また、図書委員の皆さん、司書の藤原さんをはじめ、図書館報制作に携わってくださった、すべての方に感謝いたします。(小坂)